

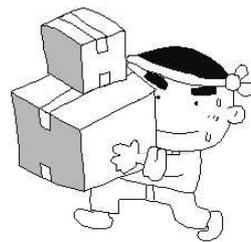
思い出の卒業式会場…私の場合

卒業式まであと一週間になってしまいました。3年生にとっては残りの中学校生活の一つ一つが大切な思い出となることでしょう。

さて、卒業式の会場といえば普通はどの学校でも体育館ですよね。ところが我々の時代は体育館ではなく『講堂』でした。厳密に言えばその目的はちがうのですが、そこで体育の授業を行い、全校集会も行いましたので現在の体育館と同じでしょう。体育館と異なることといえば正面ステージに観音開きの**巨大な扉**が設置してあるということでした。扉があるということはそれを開くこともあるのかなと思っていましたが、小学校6年間に1回も開いたところを見たことがありませんでした。当時、私の通った中学校は小学校と併設でした。というより、小学校に間借りしているという形でした。もちろん、講堂(体育館)も共有でしたので私たちは小学校も中学校も同じ講堂で卒業式がありました。

中学生になっていかにも大切なものが保管してありそうなこの扉の向こう側が気になってきました。しかし、扉には古いけれども頑丈がんじょうそうな錠前がかかっている勝手に開くことができません。見ることができないと思えば思うほど見たくなるものです。中学3年の3月、もうしばらくで卒業です。2回も同じ場所で卒業式をする講堂には人一倍の思い出があります。しかし、私の場合は同級生たちのそういう感慨より何より、卒業までに何とかしなければもう二度とこの扉の奥を確かめる機会がないことに大きな心残りがありました。式練習の後に一人講堂に残ってさびた錠前を引っ張ったり扉をゆらしてみたりしましたがどうしても中を確かめることができません。とうとう私は扉の中を確かめる術すべなく無念の思いで中学校を卒業してしまったのです。

しかしみなさん！『神はある』のです。念ずれば夢は叶うのです。一旦はあきらめたチャンスが再び訪れました。高校に進学した私たちでしたがその一年生の7月に天の思おぼし召めしがあつたのです。何と高校の校舎と9年間通い慣れた小中学校の校舎を交換するという大事件が起こってしまったのです。つまり再びあの講堂にもどれるのです。あの扉にもどれるというのです。



夏休みに高校生全員が引っ越し作業をしました。同級生は不満たらたらでした。しかし私だけはちがっていました。夢が叶う！ 今度こそあの扉の奥を確かめてやる！

元のなつかしい教室へ荷物を運ぶ途中講堂の前を通ります。何気なく講堂の中へ目をやると、何と夢にまでみたあの**扉が開いている**ではありませんか。荷物をそこらへんに放って無我夢中で扉にかけより中をのぞき込みました。扉の奥で用務員のおじさんが「物置の掃除の手伝いに来たんか？」 「……」